

第1回東金市学校給食施設のあり方検討会

【議事要旨】

- 1 日時 令和4年7月14日（木）15:00～16:45
- 2 場所 東金市役所第2庁舎5階大会議室
- 3 出席した委員（敬称略）
上野高志、佐久間治行、石川和彦、木河政浩、野老知子、笠原利佳
栗畑克朗、佐藤 愛、猪野真理子、篠原水紀、大桃義則
- 4 欠席した委員（敬称略）
在原 徹
- 5 出席職員
長尾教育部長、新田学校教育課長、加藤学校教育課指導係主査
矢崎教育総務課長、小倉教育総務課副課長、石橋教育総務課施設整備係長
- 6 会議次第

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1 開 会2 教育長あいさつ3 委員・事務局紹介4 議題について<ul style="list-style-type: none">(1) 学校給食の意義・役割について(2) 学校給食の実施方式等について(3) 東金市の現状・課題について(4) 今後のスケジュールと協議内容について5 その他6 閉 会 |
|---|

7 議事要旨（主な意見）

- ・調理方式によって、栄養教諭等の配置基準が異なることについて理解しておく必要がある。
- ・3歳児給食については、早期提供することのリスクについて整理する必要がある。
- ・センター方式の場合、配送の関係で給食が冷めてしまうことや、加工食品が増えることが懸念される。
- ・自校方式では、栄養教諭の先生方との連携もとれており、地域の食材や季節を感じるメニューなどもある。
- ・センター方式の場合、建設場所により各学校への配送の順番も変わることから、提供温度の影響を受ける学校も出てきてしまうのではないか。
- ・自校方式は、食育授業を通じて考えたメニューを出してもらえるため、食べ物に対する感謝の気持ちが育っていると感じる。
- ・米飯給食が推奨されているので、週5回の米飯給食を実施してほしい。
- ・建設コスト削減においては、センター方式が有利となるが、衛生管理面の強化では、自校方式でもセンター方式でも対応ができる。食育といった機能面をどのように捉えていくのかが大事である。
- ・コスト面や機能面、配送の問題など、子ども達の食育の面が重要であるので、そうした課題を総合的に考えていきたい。
- ・センター方式か自校方式か、今後議論が進んでいくが、委員の意見が集約されて方向性がまとまっていくと良いと感じている。
- ・温かい給食を食べることが食育につながる。また、自校方式は栄養教諭の先生が、学校ごとにメニューを作っているのので、センターの場合、そうした良さが失われてしまう。
- ・食物アレルギー対応において、細かな部分について、学校との連携がしっかりできるのであれば、センター方式も良いのではないか。